

# 教育点描

## 便利はほどほどに

役重真喜子

(岩手県東和町教育委員会 次長)

ここ岩手県の内陸南部、宮沢賢治の故郷に近い小さな農村に暮らし始めて14年になる。

都会のサラリーマン家庭に育った私にとって、生まれて初めての農村の暮らしは何もかも驚くことばかりだった。朝6時を過ぎれば回ってくる回覧版。道路の草刈、冠婚葬祭などの地域行事の多さ。3日も4日も続くお葬式…。

慣れない風習に右往左往しながらようやく1年が過ぎた頃、私はふと気づいた。

「今日のお風呂のお湯、茶色い…」

それまでにも同じことが何度かあった。思い出してみると、それは必ず強い雨が降った数日後のことなのだった。姑に尋ねると、

「うちの水道は沢水だからナ、山に雨が降れば濁るのヨ」とさっぱりと言う。

雨が降ると水が濁る？ 新発見である。都会の生活では、水道の蛇口をひねればきれいな水が出るのが当たり前だった。百円を入れれば缶コーヒーが出てくるのと同じ感覚。水道の水がどこからどうやって来るのか、子どもの頃から私は意識して考えたこともなかったのである。

農村では、水は山からやって来る。沢を掘り、沈殿池を作り、管を引き、蛇口を立ち上げて初めて水が出る。山を荒らせば雨が走り、沢水が濁る。だから、皆が山を大事にする。

このことに気づいてから、私はそれまでと違う目線で身边を眺めるようになった。水、電気

回りの簡単な造作はもちろん、生コンを入れて小屋のタタキを作るくらい、農家の人たちは自分でこなしてしまう。都会なら業者に頼むほかない様々な手仕事、小さな技術が、自然相手の農村の暮らしの中にはしっかり生きているのだ。

都市生活の便利は、究極の分業にある。ボタン一つでご飯が温まる。クリック一つで商品が届く。結果さえ享受できればオーライ。インプットとアウトプットをつなぐ途中の技術や知識は専門家に委ねればいいのであり、ボク・ワタシは知らなくても支障なく生きていける。

本当にそうだろうか？ 平和な世の中では支障ないかもしれないが、例えばいざ災害という時、暮らしの小さな技術を失くした現代人は、果たして生きていけるだろうか？

モノづくりだけではない。人との関係をつくる技術も生きる上で必須のスキルだ。しかし、ネットでチャットはできても、生身の相手に面と向かい合うとまともな対話ができない、そんな子どもが増えてはいまいか。パソコンと違い、人間には感情がある。目の色や声の調子を読む、相手の反応を見てこちらの出方を微調整する——チンパンジーだって身に付けているコミュニケーションの基本技術を、私たちは知らぬ間に失いかけてはいないだろうか。

便利はほどほどに、が肝心。日々の農村生活が教えてくれた「カギ」である。

### ヤクシゲ マキコ

1967年、茨城県生まれ。農林水産省入省後の農村研修で東和町と出会い、平成5年に退職・移住。牛飼いの夢を温めながら、現在は子育てと役場勤務の両立をめざす。

**【特集】  
学習意欲を喚起する  
授業の工夫**

山本利一

**「技能の学び方」に着目した  
学習指導の工夫**



ヤマモト トシカズ

1961年福井市生まれ。福井大学大学院教育学研究科修士、中学校教諭、福井県教育研究所企画主査などを経て、埼玉大学教育学部教授 博士(学校教育学)。主な著書として、共著「学校で拓くメディアリテラシー」日本文芸出版(2002)、「体験 ロボットとコンピュータ-WAPR5500 ティーチアーズガイド」永和システムマネージメント(2004)ほか。主な研究として、「技術教育や情報教育における教材・教具の開発」、「学習活動の認知心理学的分析」など

中学校技術・家庭科の材料加工学習では、簡単な製作品の設計や製作を通して、材料の特徴や加工法の関係を理解し、技術の役割や技術を活用する能力を育成することを目標としている。それらの目標を達成させるため、多種多様な技能的課題(要素作業)が設定されており、学校現場ではそれらを効果的に組み合わせ、生徒に適切な技能の習得を図るための教育実践が営まれている。

これら、材料加工学習で習得させるべきことは、学習結果としてどのようなスキル(技能)が身に付いたかと同時に、技能習得の雛形的なモデルを体験をすることで、生徒に「技能の学び方」を体得させることが重要である。技能の学び方を学習することによって、新しい課題に直面した時、今までの技能を再構築することに付け加え、新たな技能を習得しようとする姿勢が生まれてくる。そこでこれらを支援する具体的指導の手立てを紹介する。

**1 メタ認知を促す自己評価**

技能の学び方を身に付けるということには、技能を学んでいる自分自身の反応(状態)を知ることが重要である。自分自身の反応を的確に把握することにより、不必要に不安感を持ったり、作業を投げ出しそうになったり、消極的になってしまう自分をコントロールすることができるようになると考えられている。

上記の自分自身の反応を知ることは、作業遂行の状態(反応)を知ること(モニタリング)とは異なり、メタ認知の能力を意味している。これらを鍛えることで、作業の進行の見通しが立ち、学習意欲が持続し、その結果として、技能が効果的に定着する。ここで言うメタ認知とは、認知に対する認知、すなわち、見る、聞く、書く、話す、覚える、考える、といった通常の認知活動をもう一段高いレベルから捉えた認知を指す。認知行為を「メタ(高次)」次元から眺め、認知行為の全体性や方向性の修正等を迫ってくるものである。つまり、技

能の学び方を習得するためには、「生徒自身がその学習活動のプロセスの全体を見通す力と行動(運動)を修正する力、学び方を考える力」といった“メタ認知”の力が重要である。

授業において、生徒が自分自身の「技能の学び」を振り返る場面を複数回の自己評価として指導計画の中に組み込むことが効果的である。また、これらの自己評価は、教師が生徒の学習状態を把握する方法として形成的評価の意味あいを持たせることも可能である。自己評価の項目は、学習内容に対応させる必要があるが、例えば「技能的課題遂行時の内省尺度」<sup>1)</sup>なども活用が可能である。本尺度では、技能的課題の遂行過程における下位構造として、「課題解決に対する内省」「つまずきに対する内省」「課題達成に向けた内省」の反応を調べることができる。

**2 生徒の実態に応じた指導**

これまでの中学生の技能習得に関する実態調査の結果、下記に示すつまずきの知見が示唆されている。①作業の状態を把握する力の不足、②正しい作業のための運動の制御力不足(巧緻性や複数動作の協応)、③原理や手続き的知識の不足など、技能的課題の遂行時に生じるつまずきの要因が報告されている。そこで、これらの生徒の実態を踏まえて、「技能の学びの習得」の支援のあり方を検討する必要がある。

**2.1 学びの習得を支援する教材・教具の活用**

上記に示すつまずきへの対応として、学びを支援する手立てと、学びを阻害する要因を排除する手立てが想定できる。

学びを支援する手立てとは、生徒が学習に取り組む時、学習内容がよりスムーズに定着することを支援する取り組みである。例えば、①手続き的知識の構造化を支援する手立て、②原理の理解を支援する手立てとして、③遂行結果の正確な把握を支援する手立てとしてなどが考えられる。

学びを阻害する要因を排除する手立てとは、技能的課題を遂行する過程において、つまずきやすい要因を明らかにし、つまずきの程度を軽減する取り組みである。例えば、①複数動作の協応化を支援する手立てや、②加工難易度を調整する手立てが考えられる。

**2.2 題材の選定**

技能の学びの習得を実現する場合、生徒の実態を踏まえたそれらを適切に体験できる学習の場面設定、題材などの工夫が必要となる。

技能を学ぶ時、その学習場面としては、「原理や手続きを体系的に理解すること」「動作や工程をトレーニングすること」「易から難へ、単純から複雑へ、単一動作から協応動作へ系統的に学習すること」「パフォーマンスの結果を生徒自身が把握・評価すること」などが重要であり、それらをいかに内面化(コツとしてつかませるか)させるかが大切である。しかし、技能に関するトレーニングの時間や、多種多様な技能的課題を学習することが授業時間の削減によって難しくなっている。これらの現状を踏まえて、適切な課題を抽出し、それらを技能習得の過程を踏まえて、並び替えることが可能な製作題材を選択することが重要である。限られた短い時間の中で、意図的に選択された技能的課題を組み合わせ、製作題材を選択して実践する必要がある。

**2.3 その他の手立て**

そのほか支援の手立てとして、「生徒の技能習得の段階に応じた学習指導」や「生徒の内省に基づく学習指導の展開」「学習への動機やコンピテンスを基にした学習指導」など検討が必要である。教師は、本教科でしか身につけられない資質に対する指導を中核に据え、学習指導要領の目標を3年間で到達できるように計画的に実践することが大切である。

1)山本利一、森山潤：材料加工学習における生徒の技能習得を把握するためのシンプトムの検討、日本産業技術教育学会誌、第46巻、第3号、123-133頁(2004)

## [特集] 学習意欲を喚起する 授業の工夫

野田  
文子

# 学習の成果が見える 授業の展開



ノダ フミコ

大阪府生まれ。大阪教育大学大学院教育学研究科修了、教育学修士。大阪府公立中学校教諭、大分大学教育学部助教を経て、現在、大阪教育大学教育学部家政教育講座助教授。著書は、「新しい小学校家庭科の研究」(編著、教育出版センター)、「調理で生きる総合的な学習の時間」(編著、開隆堂)、「生活の経営と福祉」(分担、朝倉書店)など。大都市圏の子どもの生活能力の育成に強い関心をもち、体験的な学習教材の開発に取り組んでいる。

### ○ 家庭科の課題

生活に対する百人百様の興味・関心の最大公約数を把握することはたいへん難しい。仮にその最大公約数があるとして、その集団の学習に対するニーズに適切に応えることはもっと難しい。学習のための準備条件がそれぞれ異なるからである。家庭科の授業は、学習者の多様な生活実態の上に展開しているものであり、個々の学習者のニーズに応えることは重要であり、かつ、たいへん難しいことでもある。家庭科の授業は、このような多様な子どもの生活を的確に把握することから始まる。

### ○ 学習の道筋と成果が見える

授業という指導者の意図を持った学習をより効果的に成立させるには、家庭科ではどのようなところに留意すればよいのだろうか。まず、人が積極的に学習に取り組むのはどのようなときか考えてみたい。学習内容や学習方法に強い興味・興味がある場合、その学習によって自分の望む方向に成長できるという見通しを持っている場合、また、周囲からその学習の結果が高く評価される場合、その学習によって好ましい人間関係が構築される場合などが考えられる。これらがうまく織り合わさった場合、多くの人は、その学習を「楽しい」と感じるようである。道を歩くときには、方向を決めなければ歩き出すことが出来ない。また、距離が同じでも、道に迷って歩くと、道筋がはっきりしているのとでは、疲労感は大きく異なる。到着点に何かいいことがありそうときや、同行者がいるときは、足取りも軽くなるものである。

家庭科の授業においても、教材が子どもの「興味・関心」を捉えたものであると同時に、結果に「何が期待できるのか」、そのためには「何をするのか」、「共に励ましあい、競い合う」中で学習があり、成果を「評価される機会」が設定されているなどの工夫が大切であ

るといえる。

このような明確な学習の道筋と学習の成果への期待を学習者が持つためには、到達目標などについて授業者の意図が明確であること、授業の計画がはっきりしていることがまず必要である。その上で、授業展開に、特に考慮すべき具体的な点について考えてみたい。

### ○ 家庭科学習の特徴と展開

体験的な学習を教科の中心においていることは、家庭科の特徴のひとつである。

最近では、子どもの生活やものづくり体験を豊かにすることの意義が見直されるようになり、地域行政などで体験学習の機会が設定されることも多い。また、総合学習も導入されてしばらくの時間が過ぎた。家庭科の学習内容はこれらの体験学習に一旦類似しているが、家庭科で扱われる「体験」は、実生活をより深く知り、考えるための「体験」である。個々の「生活の質の向上」という方向性と「主体的な生活の創造」という到達目標を持っている。そのために必要であると考えられる、より効率的で信頼できる知識と技術の習得が教科の基礎・基本として重視されている。

このような特徴を考えると、家庭科に期待される授業は、集団指導の中で、主体的に考えることや行動することを尊重し、同時に、一定水準の知識や技術を確実に身につけさせるという複雑な内容となっていることがわかる。主体的で体験的な学習を提供するため、課題解決学習、実験や実習、ロールプレイングなどの多様な体験的な学習の方法が授業の中に取り込まれており、確実な技術の修得のために、例えば、個別調理などの学習形態も試みられている。

これらの学習活動を家庭科としてより効果的なものとするためには、「何のために何をするのか」という学習者による学習の確認作業が重要となる。周囲からの期待を受け止め、学習者自身に学習の成果に対する期待を「沁

みこませる」ための時間である。提示される学習課題やテーマを百者百様の学習期待に照らし合わせ、それぞれの課題として引き受け、共通の学習活動として練り上げていく過程である。学習の途中、結果についてもそれぞれに点検し共有化する時間が必要である。

特に、班活動などの協同学習では、意見を調整し、ひとつの課題を追求する過程が、家族などの小集団での意思決定プロセスの学習の機会となり、多様な学習成果を期待することができる。

体験学習を中心とする家庭科には、多くの教材を誠実に取り上げようとすればするほど、学習活動が知識の伝達と作業に終わるという落とし穴がある。上述のような「沁みこませる」ための活動を含めた適切な時間配分の中で学習を組み立てることが重要である。

### ○ 学習の振り返りと公表

また、学習を反芻し、振り返ることによって、学習者は自己の内部に成果を蓄積することができる。これによって、学習に対するより深い満足感を持つことができると思われる。多くの授業研究などで、学習成果の発表が広く活用されるようになってきたのは、プレゼンテーション能力を高めるだけでなく、このような作用も期待されてのことであろう。

これらの発表には、個、内部的な集団、外部といくつかのレンジの対象が必要であり、評価のための内省の時間、共有化のための協議の時間、準備のための協同の時間がまた必要である。体験学習によって形成される学習成果は多様であり、何か一つだけ身に着くということは無い。体験学習は、時間も含めた4次元的な活動であり、情報量は2次元の学習に比べはるかに多い。どのように整理していくかが鍵となる。

# 快適な暮らしを創り出すための意欲を喚起する指導の工夫

—見つけよう！ふやそう！わたしたちの快適—

大田区立大森第一小学校 飯島 典子

## 1. はじめに

住まいの学習は、児童の住宅事情も多様で個人差が大きく、児童自らが工夫したり、改善したりすることがむずかしく、学習意欲も喚起しにくい。そこでこの学習では「快適」をキーワードとして、それぞれが思う「快適」について話し合い、「快適な住まい」のイメージをつかんだり、「6年生の部屋」をイメージした絵を共通の話題として「快適」を考えさせたりした。そこから自分の住まいの「快適」に目を向けさせ、問題解決学習に結びつけた。

児童一人一人が自分の住まいの「快適」を増やすために、課題を見つけ、工夫することや、調べたり、試したりする過程を通して「快適」を追求し、その成果を自分の生活に生かそうとする実践的な態度を育てたいと考えた。特に課題を決定する学習では一人一人が見通しをもって、最後まで意欲的に取り組めるようワークシートを工夫した。また、自分で調べたこと、工夫したことを交流し、学び合うことにより、自分の生活に工夫して生かすことができるよう考えた事例である。

## 2. 実践例

### (1) 題材名

6年「見つけよう！ふやそう！わたしたちの快適」

### (2) 題材の目標

- ・快適さとは気持ちよく心地よい状態であり、周囲の人にも迷惑をかけず調和している状態であることを理解する。
- ・快適な住まい方に関心を持ち、自分の生活の中から暖かさ、風通し、明るさなどの課題を見つけ、自ら考え解決しようとする。
- ・自分で調べたことや、友達の発表を聞いて、快適な住まい方を自分の生活の中で工夫すること

ができる。

### (3) 指導計画(7時間)

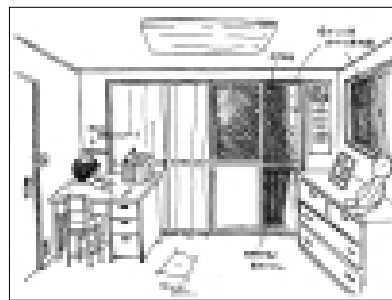
小題材名	主な内容
第1次(1時間) 快適な住まいってなあに	・快適な住まい方に関心を持つ。 ・快適な住まい方を見つけ快適さについて考える。
第2次(1時間) 課題を見つけよう	・住まいの快適さをふやせる課題を見つける。
第3次(3時間) 調べてみよう まとめてみよう	・自分の課題解決を通して快適な住まい方を考えたり、自分なりに工夫したりする。
第4次(2時間) 発表しよう わたしたちの快適	・自分で見つけた快適さや、友達の発表を聞いて、生活に生かそうなどを見つける。

### (4) 指導の実際

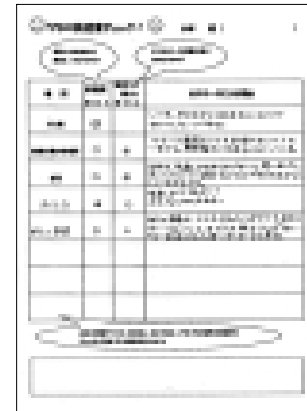
#### 第1次 快適な住まいってなあに

「快適」という言葉からイメージすることを考える。このときに自分だけが気持ちよく過ごせるということではなく、周囲の人に迷惑をかけず調和している状態が本当の快適だということに気付かせる。

次にワークシート「6年生の部屋」の絵を共通の話題とし「快適」を見つけたり、さらに「快適」にするために考えたりする。それを発表し合うことで「快適」について理解を深める。自分の生活に近い「6年生の部屋」の絵ということで考えやすく、意見も交換しやすい。

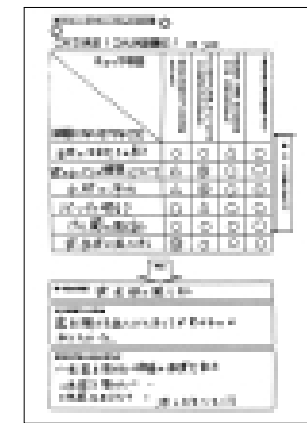


「快適」について考えたことを生かし、自分の住まいの快適について考えることを宿題とする。



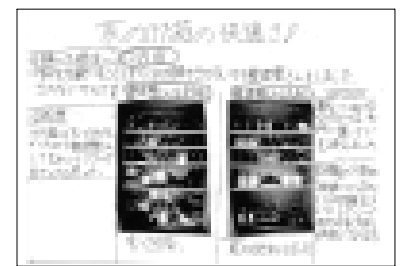
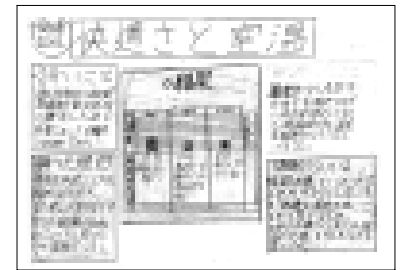
#### 第2次 課題を見つけよう

ワークシート「我が家の快適度チェック」をもとに課題になりそうな項目をいくつかあげ、「最後まで興味をもって取り組めそうか」、「どのように解決したらよいか見通しがもてるか」、「課題解決のための資料や材料・用具があるか」、「家庭生活に身近な課題か」をチェックし、取り組む課題を決める。課題になりそうなことについて細かくチェックすることにより、活動に見通しをもち、最後まで興味をもって取り組める課題を一人一人が決めることができ、支援もしやすい。自分の家のことについて課題解決がむずかしい児童は、校内も生活の場と考え、教室での「快適」について課題を追求してもよいと考える。次時の3時間で学校や家で調べたり、実験したり、確かめたりする具体的な内容や用具等を計画のときに明確にすることが大切である。



#### 第3次 調べてみよう・まとめてみよう

計画をもとに児童一人一人が調べたりまとめたりする時間とする。それぞれの児童がちがう取り組みをするので個別の内容をしっかりと把握し、支援する必要がある。



#### 第4次 発表しよう わたしたちの快適

友達の発表を聞いて、自分の見つけた「快適」と比較したり、新たに見つけた「快適」で生活に生かそうなどを見つける。

## 3. おわりに

住まいの学習をするとき、意図的に生活を見つめさせることをしないと児童は関心はもたず、意欲を喚起しにくい。ワークシートを使って学習することにより、共通の場を設定することや課題の解決の見通しを具体的にもたせることができ、学習の意欲を高めることができる。自分の課題として調べ解決していき、自分の考えをもつことが生きる力や生活を創造していく力につながる。

(大田区小学校家庭科教育研究部共同研究より)

# 子ども達が「やってみたい」「できた」と 思える授業や指導計画の工夫

福岡県北九州市立足原小学校 杉谷 和美

## 1. はじめに

家庭科教育は実践的・体験的な活動を通して行う学習であることを重視し、学習内容として主に家庭生活に焦点を当て、衣食住などに関する内容を取り上げ、家庭生活への関心を高めるとともに、必要な基礎的な知識と技能を身に付け、最終目標として家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てることである。しかし実際には家庭科の授業時数は少なくなっており、十分な家庭科の学習をすることが難しくなっている。

そこで、「学習内容の焦点化と学習における授業内容や教材の工夫」「2年間を見通した指導計画の工夫」という二つを手だてとすることで、学習の効果を高め子ども達の意欲を喚起することができるものと考え実践を行った。

## 2. 学習内容の焦点化と学習における授業内容や教材の工夫～衣服を気持ちよく整えよう～

この題材の中で押さえることを三つにし、子ども達がそれを確実に習得し、授業への興味や関心をもてるよう、ワークシートの作成・実験や実習などの活動を取り入れて授業の展開をした。

### ①衣服を着るときは、気温や季節の変化、生活場面に応じた着方をすることに気付く。

導入では、教師が用意した夏物、冬物の衣服を調べることをきっかけに日常着の着方に目を向けていけるようにした。子ども達は、提示された衣服に興味を持って学習に取り組むことができた。衣服の着方について、夏と冬の衣服を調べることから季節や気温の変化について考え、生活活動上の着方へと発展させていくことができた。いつも何気なく着ている衣服に「風を通しやすいため涼しく着ることができるんだ」「暖かく着るために体温を逃がさないようになっているんだ」という機能的なものに気付き、改めて衣服のよさを見直していくことができ、衣服を大切にしていこうという気持ちから、手入れについての学習意欲を持たせることができた。(ワークシート参照)

### ②衣服を大切に扱い、気持ちよく着るためには手入れが必要であることがわかる。

この学習では、課題の解決を、実験を中心に考えることができるようにした。マーガリンを付けた布を水の中につけて布がなかなか沈まないことから、布は汚れが付くと汗を吸いにくくなるということを理解できるようにした。次に洗剤を混ぜた水に汚れた布を入れて汚れが落ちる様子を観察させ、洗剤を使うことで衣服の汚れを落とすことができるということを実感させることができ、衣服を気持ちよく、機能性を生かして着るには洗濯が必要で、自分で洗濯ができるようになりたいという意欲を高めることができた。

### ③洗濯について、汚れの点検から干すまでの基本的な作業から成り立っていることを理解し、身近な衣服の手洗いができるようにする。

ここでは、手洗いの仕方を教科書を使って調べながら手順表を作成し、洗濯の実習を行った。ワークシートに手順表を分かりやすく書くことで子ども達が洗濯の仕方を確実に理解できるものと考えた。この題材に入る前、子どものほとんどが、「製作や調理は好きだが洗濯についての学習なんてあまり興味ない」と口にしていました。しかし、①～②の学習を進めていくうちに子どもは、洗濯への興味・関心が高まり、楽しそうに洗濯の実習に取り組んだ。実験をしたり、調べたりする学習は、子



①で使用したワークシート ③で使用したワークシート

どもの「やってみよう」という意欲につながったものとする。子どもは、「衣類の汚れを落とすためには、電気洗濯機に勝るものはない。」と思っていた。しかし、手洗した洗濯物の汚れが確実に落ちているのを見て「手洗いでこんなにきれいになるとは思わなかった。」という実感のこもった感想を持った。洗濯物を手洗いすることなど生活の中で経験することが無かった子どもが「こんなに汚れが落ちるなら、靴下は自分で手洗いしよう」という家庭での実践意欲につながっていった。

## 3. 2年間を見通した指導計画の工夫 ～生活に役立つものをつくろう～

各学年とも学期ごとのテーマを決め、簡単に取り組める内容から難しい内容へと、無理なく学習効果が高まるよう配慮し、「生活で役立つものを製作して活用できる」「日常の食事に関心をもって、調和のよい食事のとり方がわかる」の内容について、知識や技能がより確実に身につけられる指導計画を作成した。

### 2年間を見通した計画やねらい

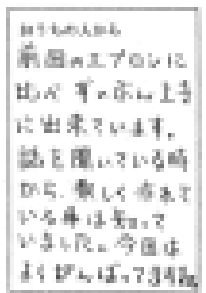
第5年生	第6年生
II 2学期テーマ：やってみよう、調べてみよう 1 布で作ろう ○エプロン作り ●ねらい ミシンの直線縫いを使って、エプロンを作る。 ●習得させたい技能 ・製作手順表を作る ・仮縫い ・ミシンの直線縫い	II 2学期テーマ：生活に生かそう 1 生活に役立つものを作ろう ○バッグ(袋)作り ●ねらい ミシンの直線縫いを使って作りたいバッグを作る。 ●習得させたい技能 ・自分の作りたいものを考えて製作手順表を作る ・仮縫い ・ミシンを使った返し縫い、糸の始末
2 なぜ食べるのか考えよう 3 ごはんとみそしるを作ろう ○ごはんとみそしる作り ●習得させたい技能 ・食品を三つのグループに分ける ・炊飯の仕方 ・みそしるの作り方	2 くふうして調理しよう ○ごはんとみそしるにゆでる、いためるの方法を使った一品を加える。 ●習得させたい技能 ・三つのグループを参考にバランスのよい献立を立てる ・炊飯、みそしる、ゆでる、いためるの調理

以前の指導計画では、5年生の「布で作ろう」でナップザックなどの袋物を製作し、6年生の「生活に役立つものを作ろう」でエプロンを製作していた。しかし、ミシンを用いた直線縫いを繰り返し行えることや、成就感を味わえる教材であることから、5年生ではエプロンの製作に取り組ませることが適切ではないかと考えた。

次に6年生では、5年生で習得したミシンを用いた直線縫いの技能をもとに、自分なりの工夫をおおいに発揮することのできる袋の製作に取り組

ませることが適切であると考えた。その時、ナップザック・トートバッグ・ショルダーバッグの3つから自分の作りたい袋の製作に取り組みさせるようにした。ここではミシンを用いた直線縫いの技能に加えて、「口あき止まり」や「丈夫なひも付けのための縫い方」「ミシンを用いた返し縫い」「ミシンの糸の始末」ができることをねらいとした。「糸の始末」については返し縫いをした後、仕上がりをさらに丈夫に美しくするため、玉どめをして始末するようにさせた。玉どめの技能をここでもう一度復習することで、手縫いの技能も定着させたいと考えた。

このように子どもに基礎的・基本的な内容が無理なく定着するような指導計画を立てたことで、5年生では、ミシンを用いた直線縫いの技能を全員が確実に修得することができた。そのため、6年生の種類の違う袋の製作にも子どもは自信を持って意欲的に取り組むことができた。ミシンを用いた「返し縫い」「糸の始末」だけでなく、「布をたつ」「かりぬい」「ひものつけ方」なども時間内で十分に行うことができた。保護者から「とても上手にできていて驚いた」という感想が寄せられた。



このことから、2年間を見通した指導計画の工夫をしたことで、意図的に技能の定着に向けた学習活動が繰り返され、子どもには確実に基礎的・基本的な内容が身に付いた。子どもは、自分の作品を自分の力で仕上げることができるようになり、家族や担任から賞賛されることも増え、さらに製作の喜びと新たな意欲を持つようになったと考える。

## 4. おわりに

「学習のねらいの明確化と指導法の工夫」や「2年間を見通した指導計画の工夫」の取り組みから子どもは学習意欲の高まりと共に家庭での実践の意欲も高めることができた。この実践をもとに今後も家庭科教育の実践・研究を進めていきたい。

＜参考文献＞  
 ●ASSET-ビジュアル家庭科教育実践講座  
 家庭科教育実践講座刊行会 編集 日本文教社  
 ●小学校指導要領解説 家庭科編  
 文部科学省著作権所有 開隆堂発行  
 ●北九州市立小学校 教育課程編成資料 北九州市教育委員会

# 学びの意欲を持たせる授業

## ～食の学習を通して～

千葉県夷隅郡大原町立大原中学校 渡邊 恵子

### 1. はじめに

今日輸入食品の安全性が問われ日本の食料事情を見直すといった話題を目にするとき、私たちにできることは何があるだろうか考えると、「地産地消」という言葉が浮かんでくる。

さて、子どもたちを取り巻く食の環境は、ファーストフード店の増加やレトルト食品、インスタント食品等が多く出回り、いつでもどこでも調理をしなくても簡単に食事ができるようになった。そして家庭独自の味が薄れ、その地域に受け継がれてきた料理を作るといことも少なくなってきている。人と人とのコミュニケーションや人の温かさは食事をしながらの会話から生まれてくる。しかし、現実には塾や部活動のために家族との食事ができない、地域の行事にもなかなか参加できない、核家族が増え行事食(お雑煮)さえ作らない家庭もある。このような食を巡る状況の中で、子どもたちが自分自身の食生活を見つめ、課題に気づき豊かな食生活を営み、自立していく力を培っていくためには家庭科の食の学習はたいへん重要であり、その果たす役割は大きい。

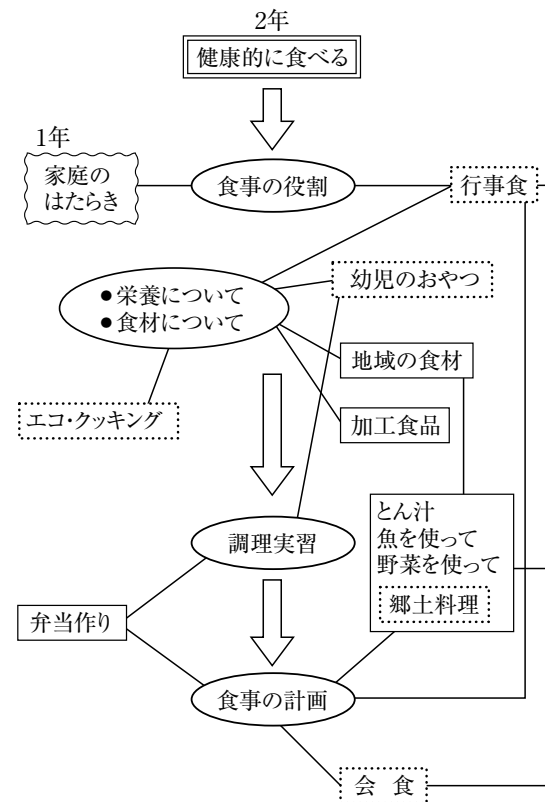
生徒の食に関する意識は高いが、自分で食事を整えること(食材選びや食事作り等)に関しては受動的であり、また消極的でもある。そこで、ここでは、生涯関わっていかねばならない食の自立を目指し意欲的に食について考えていけるよう、実践的な態度を育てたい。そして意欲的に課題を持って学習に取り組むことで、個々の生きる力につながるのではないかと考える。そこで、1～3年までの食に関する学習をまとめ年間計画を作成、意欲的に学習できるよう系統立ててみた。その指導の一端を紹介したいと思う。

### 2. 実践内容

#### (1) 図式化について

まず、食に関する学習項目の洗い出しを行った。次にそれらの項目がどう関連づけられるかを図式

化した。次の図がそれである。



それぞれがどんな関わりを持っているか、学習のスタート時に生徒に説明。

3年間の見通しを生徒自身もてるようにした。

1年〜 2年—— 3年………  
で表し、学年での内容がわかるようにした。

#### (2) 年間計画について

1年(2)	2年(20)	3年(17)
家庭のはたらき	健康的に食べる ・栄養について4 ・食材にこだわる4 ・調理実習8 ・食事の計画4	楽しく豊かに食べる ・郷土料理5 ・行事食4 ・会食4 ・幼児のおやつ4

#### (3) 実践Ⅰ 健康的に食べるから

・栄養について→生徒にとって理解が難しい部分であるため、ここでは生徒の疑問、知りたいことを導入の段階で取り上げ、それらを中心に学習を進めた。

自分で調べる→発表→検証(補足説明)

・食材について→野菜・魚などの生鮮食品は

**野菜** 地域で作られているものを調べる。

朝市、スーパー、産地、採れる時期などテーマを決めてレポート作りをする。

**魚介類** 近くの港に水揚げされるものを中心に調べる。

種類・選び方・調理法(煮る、焼く、揚げるなど)

・加工食品について→加工の理由、方法、種類、表示、マーク、添加物について調べる。

家庭で行っている加工について  
・梅干し・切り干し大根・漬け物  
・ジャム・そば・うどん、フリージング  
などから加工の特徴にせまる。  
表示、マーク、食品添加物について  
・普段使っている加工食品の包装を持ってきてその表示を調べる。

・調理実習

具だくさんとん汁(おいしく作るには?)

実習に必要な項目をあげ調べる。  
材料、分量、用具、手順、など調理の基本となる部分は指導者側がきちんと把握しておくことが大切である。  
主なテーマ：季節の具を入れて  
おいしさの比較(塩分濃度)  
切り方の工夫  
試食はお互いに交換して行う。

**魚を使った調理**

地元でとれるいわしを使って

蒲焼き、香草焼き、チーズムニエル、和風バーグの中から作ってみたい料理を選択する。

食材についてのところで調べた内容を活用する。  
(一人調理を行う)

香草焼きはパン粉、オリーブ油パセリ、ニンニクのみじん切りを全部まぜ、開いたいわしの身の上のせ、オーブントースターで焼く。

献立づくりは弁当を使って一食分を考える。地域のお雑煮ウォッチングや我が家の自慢料理調べを発展学習として行う。

実践Ⅱ 楽しく豊かに食べるから  
京都への修学旅行を利用して京都の食べ物を調べる。

八つ橋、五色豆、千枚漬け、しば漬け、湯豆腐、おぼんざい など

気候風土や昔から受け継がれてきた食べ物に気づく。

自分たちが住む地域の料理には

発見 調べ学習

その土地の味、調理技術や工夫の継承

なまりちらし、かつおハンバーグ ← 郷土料理  
ひじきのパウンドケーキ、  
ひじき入り米っこおやき } 幼児のおやつの実習

会食

幼稚園の栄養士さんの話・幼稚園のおやつ作りのポイント

※郷土料理は勝浦市HPより引用

### 3. おわりに

意欲的に学習に取り組むにはという視点から今回のような食の学習を行ってきたが、生徒個々の課題の持たせ方、課題解決の方法、それに要する時間の確保、教材開発等、日々の限られた中で行うことは大変難しい。これからも情報収集等努力を続けていきたいと思う。

# 生徒の学習意欲を高める楽しい授業、分かる授業の工夫

神奈川県相模原市立相原中学校 佐藤 修

楽しい授業、分かる授業は生徒の学ぶ意欲を高めるものである。やりがいのある学習課題や楽しい活動場面が用意されれば、生徒の意欲的な取り組みや学習成果が期待ができる。そこで、今回は「学びがいのある授業」＝「評価するのにふさわしい活動場面が盛り込まれた学習展開を設定した授業」と捉え、学習意欲を喚起するための資料等について紹介する。

## 1. 生徒の学習意欲を高める楽しい授業、分かる授業のための資料

資料	活用時期	資料の主な内容	学習意欲とのかかわり
シラバス	教科ガイダンス(題材ごと)	学習内容、評価基準、評価方法	目標への期待感
教科通信	題材ごと	授業展開に対応する読み物資料	興味、好奇心
確認テスト	次時の開始時(前時の復習)	前時の学習の知識・理解、技能	自己評価、個別化
N2法	構想や思考の段階	課題把握や「関・意・態」評価	自己評価、個別化
診断カルテ	作業	自己評価能力の向上	自己評価、協力
ワークシート	学習のまとめりごと	まとめに4行詩を活用	自己評価、目標への期待感

### (1) シラバス導入の効果

学習意欲を喚起するためには、目標に到達できる(やればできる)という期待感を持たせることが大切である。また、成功感や成就感を味わうことで、生徒は自信を持ち、次の学習に取り組む意欲が高まる。そこで、学習のねらいは何か、どこまでやったり、できたりしたら「おおむね満足できると判断される」「十分満足できると判断される」状況なのか、どのような評価方法でどのように評価されているのか等をはっきり教師が示していくことが大切である。



シラバスの例

シラバスは生徒・保護者への「説明責任」と「結果責任」を果たす意味で、特に重要であり、信頼される評価には欠かせない。4月の教科ガイダンスや新しい題材の開始時に説明を行っている。

### (2) 教科通信導入の効果

生徒に質問したいことや、疑問を感じていると思われることを教科通信に記載している。授業進度に合わせた教科通信を読むことで、興味・関心や好奇心が刺激され学習意欲が高まり、自主的・自発的な学習が行いやすい。また、その後の学習における見通しを立てて実践することや次時の作業への興味・関心を高めるのに役立つ。



教科通信の例

### (3) 確認テスト導入の効果

例えば学期末の定期試験のみで知識・理解を見取することは、学習した内容の時間的経過がありすぎたため、期待した結果が表れないことが多い。このため、確実な定着を図る意味でも、前時の学習を振り返り確認テストを実施することで、結果として学習に対する関心・意欲が高まっている。

### (4) N2法導入の効果

N2法では一人一人独創的な異なるシートを作成するので、学習に対する関心・意欲・態度や思考の状況を把握できるため、問題点を個別の学習指導の手だてとして生かすことができる。また、シートを数時間にわたり活用することで学習過程の中での変容を把握できたり、階層を深くすることで、具体的になり、課題追求の行動につなげやすい。なお、N2法では、単語や短い文章で記述するので、日本語能力(文書能力)に大きな影響を受けないので、評価もしやすい。



N2法のシートの例

### (5) 診断カルテ導入の効果

評価行為への参加があって、子どもたちが本当に授業に参加していると言える。自己評価と同時に相互評価(他者評価)を取り入れることで、評価のずれは解決が図られた。また、生徒の評価尺度(評価の基準)を、具体的な分かりやすいものにするこ

とで、自己評価能力が向上した。グループ内で協力することで、更に学習意欲も高まる。



ものづくり診断カルテの例

### (6) ワークシート導入の効果

ワークシートの最後に4行詩を取り入れた。内容は、事実(できごと、やったこと、頑張ったこと)、気づき(発見、あっそうかとひらめいたこと、感想、印象)、教訓(気づきから学んだこと、こうすればよかったなどの反省のポイント)、宣言(今日(今日)はできなくても、明日(将来)はできるようになりたいと思っていること)を、肯定的表現で書く。これを繰り返すことで、自分を見つめる機会や目標の意識化(期待感)が図られ、学習意欲の高まりにつながっている。



ワークシートのまとめにあたる「4行詩」の例

## 2. おわりに

今求められている学力は「生きる力」の知的側面である「確かな学力」であり、単なる知識の量ではなく、「自ら学ぶ意欲」や「思考力」「判断力」「表現力」などの資質や能力を含むものである。これらの力を育てるためには、場面に応じた資料を作成・活用し、学習意欲を高める楽しい授業、分かる授業を工夫していくことが大切である。今回の事例が各学校における実践の参考になれば幸いである。

# 学習意欲を喚起する言葉かけの工夫

埼玉県所沢市立小手指中学校 教諭 諸 範弘

## 1. はじめに

意欲は行動の原動力であり、行動なくして自立した人間として成長することができない。生徒の学習意欲を喚起するためには、的確な場面的な内容の言葉かけをすることが大切である。そして、その言葉は、一人一人の生徒のための、個に応じた内容であることが重要である。ここでは、「身近な場所を整理するものづくり」における言葉かけと、それを補助するワークシートの具体事例を示す。

## 2. 授業開始前のあいさつ

始業前に技術室に入ってきた生徒に対して、笑顔でさわやかに、やや大きめの声で、挨拶をしている。もちろん、一人一人の生徒の顔を見ながら「〇〇さん、おはよう！」と、その生徒の名前を呼んであげる。また、「先生、準備始めていい？」などの声があった場合には「おー、〇〇君は前回に引き続き、今日もやる気満々だなあ」と返す。生徒の名前と顔を覚え、毎時間の生徒の状況を把握しておくのは大変だが、教材研究と同等の価値があると考えている。

## 3. 授業を開始する時点でのクラスへの言葉かけ

始業時の挨拶の時に「一週間ぶりですねえ！〇〇組の皆さんに会えるのを楽しみにしていましたよ！さて、今日の授業は……」と、学級に好意的な印象を持っていることを伝える言葉を添えてから授業に入る。また「前は、とても集中して〇〇に取り組む人が多かったので、授業が早く進みましたよ！」など、前時の学習状況を肯定的に評価した言葉を付け加える。もしも、前時の授業について肯定的に評価できる場面が思いつかない場合には、自分自身の授業展開が悪かったと反省することとしている。

## 4. 製作品の決定に向けての言葉かけ

製作品が、生徒自身にとって必要なものであり、

欲しいものであればあるほど、学習意欲は増し、製作段階での積極的な行動となって表れる。しかし、教師の意図的な言葉かけが行われないと、自分の考えなしに、友達と同じ製作品にしてしまうなど、安易な決定がなされることもある。そこで、製作品の決定に当たっては、身近な場所の現状を明確にさせ(図1)、生徒自身の意志で決定できるように、言葉かけを行っている。以下は、収納するものを決定するに至るまでの事例である。



図1 身近な場所を調査するためのワークシート

S「先生、書いてきました！」  
T「〇〇さんは、どこを調べてきたんだい。」  
S「え～と、自分の部屋を調べました。」  
T「それで、部屋の中はどんな状態なんだい？」  
S「MDコンボの近くにCDやMDが散乱していて、タンスの横は絵の具やバックなど、色々な物が押し込まれています。」  
T「家の人は、何かアドバイスをしてくれたかい？」

S「CDやMDボックスとか、ピアノの上に小物入れを置いてもいいんじゃないと言われました。」  
T「それで、〇〇さんは、どんなものを片づけたと思っているの？」  
S「え～と、CD、MD、人形、小物、ゲームソフト、卓球の道具です。」  
T「ほう、たくさんあるんだね！じゃあ、その中で、新たに収納グッズをつくらなくても何とかできるものはあるかな？」  
S「CDとMDと卓球の道具は、本棚にしまえると思います。ゲームソフトはお店に売ります。」  
T「だいふ、整理できたね！あとは、何がどのくらい残ってるの？」  
S「小物が20個と、人形が10体くらい……」  
T「その小物と人形はどうしたい？」  
S「それは、自分で棚を作って収納します。」  
T「そうか！じゃあ、収納するものは決まりましたね！」  
S「はい！」  
T「家の人も喜んでくれそうだね！じゃあ次は、収納するものと、製作品を置きたい場所のスケッチをかいいて寸法を記入してくださいね。」

## 5. 製作過程での言葉かけ

生徒が製作途中の自分の材料を見て「よし、うまくいったぞ」「さっきよりも良くなってきたぞ」「ここはもっと修正が必要だなあ」と判断できることが大切である。そのためには、自分で行った加工の精度が、どの程度の状態なのかを明確に認識できる判定のめやすが必要である(図2)。しかし、教師の意図的な言葉かけが行われないと、判定が甘くなり、製作品の完成度が低くなってしまふことにもつながる。そこで、各製作工程の終了時に、教師の所に材料を持参して、デジタルカメラで撮影しながら言葉かけを行っている。以下は、切削した材料の撮影をしている時の事例である。  
S「先生、かな削りが終わりました！」  
T「おっ！待ってたよ〇〇君。出来具合はどう？」  
S「全部直角になってます。」  
T「では、直角定規で測定してみようか。カシャ！」

カシャ！ モニタを見てごらん！ 隙間はないかな？」  
S「お～ピッタリだ～。僕って天才かも！」  
T「他の材料も測定してみようか。カシャ！カシャ！今度はどうかな？」  
S「あれっ！直角じゃないよ！おかしいなあ、さっき見たときは大丈夫だったのになあ」  
T「何が良くなかったんだらうね？」  
S「刃の調整が良くなかったのかなあ？」  
(中略)  
T「いやあ、おいしいなあ！2カ所だけ直角じゃなかったね。でも、かな削りは、これで完了にしてもいいかな？」  
S「ちょっと待って！直角じゃなかったのだけもう一度やってきてもいい？」  
T「〇〇君のやる気にはかなわないなあ」



図2 切削した材料写真を貼り付けたワークシート

## 6. おわりに

生徒は、自分を認めてもらうことで、技術・家庭科の時間が好きになり、意欲的に授業に取り組むようになる。また、自分自身の、評価の目を養うことにより、客観的な評価を行なうことができるようになり、着実な成長につながっていく。今後も、あらゆる場面での適切な言葉かけを心がけ、生徒のよりよい成長のために研究を推進していきたい。

図書紹介

イラスト版 子どもの技術  
子どもとマスターする  
ものづくり25のわざとこつ

産業教育研究連盟 編  
金子政彦・沼口博 監修  
合同出版/1680円(税込)

ペン立て、木箸、まな板、アクセサリボックス、ミニテーブル……。 「身近で生活に役に立つ」ことにこだわった題材を、つくりにかたや工具の使い方とともに収めた本書。類書も増えているなか、日々教室で「技術」を教える先生方による、「かゆいところに手が届く」ような丁寧な解説が大きな特徴になっている。

製作品ごとに設けられた「ここがポイント」「使う道具」「ワンポイント



トアドバイス」といった説明や、巻末の「工具の特徴と使い方」など、実際に製作する視点に立ったきめ細やかな配慮が親切。書名に「イラスト版」とありながら、要所に挿し入れられた写真が読者の理解を助けてくれる。

まえがきにある「子どもたちが自然に働きかけ、ものを作り出すことで、そこから自然の恵みを享受し、また自分の持っている能力を研ぎ澄まし、豊かな感性を得ることができると確信しています」という言葉。こうした子どもたちの成長への真摯なまなざしこそが、実は本書の最大の魅力といえるだろう。休日、子どもと一緒に技術科の先生に教えてもらっているような気持ちになれる一冊である。

食のほそみち

酒井順子 著  
幻冬舎文庫/520円(税込)

『負け犬の遠吠え』(講談社)を書いて昨年社会的ブームになった酒井順子氏の、食に関するコラムを集めたエッセイ集が文庫になった。

著者はこの本で「自分はグルメではない」と宣言している。米の味の違いもわからないし、水の味の違いもわからない。水は「水道水をがぶ



飲み」しているという。一方で、著者は決して食に無関心でいるわけではない。新しい味覚を求めたり、おいしいものをたくさん食べようと思っている。つまりこの本は、グルメと食に無関心の、中間に位置する人が書いたものである。食に関するテーマは大きくはないが、それだけに共感を得るところも多いのではないだろうか。

食の安全の問題を個人レベルで考えざるを得ない時代になり、また個人レベルの食はグローバルな環境にもつながるのだから、食への関心はグルメであってもなくてもまずは持つべきであろう。お弁当やお膳についている赤いエビを「無駄海老」と呼び、おいしくもないし必要ではないが、無いと寂しいと書く著者の意見に、賛成するにせよ、しないにせよ、食の問題を身近なところから考えていくきっかけになることは間違いない。(編集部)

お知らせ

第6回

全国中学生創造ものづくり教育フェア

※次のサイトで情報が得られます。http://www.ajgika.ne.jp

開催期間：平成18年1月21日(土)～22日(日)

開催場所：つくば国際会議場「エポカルつくば」

主催 全日本中学校技術・家庭科研究会

茨城県 茨城県教育委員会

つくば市 つくば市教育委員会

プログラム

- (1) 生徒作品コンクール
- (2) ものづくり競技大会
  - ①めざせ!!「木工の技」チャンピオン
  - ②とっておきのアイデアハーパント
  - ③「あなたのためのおべんとう」コンクール
- (3) 創造アイデアロボットコンテスト
- (4) 体験セミナー・各種コンテスト・エネルギー利用
- (5) パソコン入力コンクール
- (6) ものづくり学習に関する素材・機具等の展示
- (7) 講演会 有馬朗人氏(元文部大臣)

第44回

全日本中学校技術・家庭科研究大会

※次のサイトで情報が得られます。http://gika.ath.cx/

研究主題・副主題

【生きる力】をはぐくむ技術・家庭科教育

—生活を高める力を身に付ける評価活動の在り方—

主催 全日本中学校技術・家庭科研究会

北海道技術・家庭科教育研究会

札幌市教育研究協議会中学校技術・家庭研究部会

期日と大会会場

平成17年10月19日(水)

全道理事会・全国理事会：札幌コンベンションセンター

平成17年10月20日(木)

開会式・全体会・講演会：札幌コンベンションセンター

平成17年10月21日(金)

公開授業・分科会・閉会式：札幌市内9分科会 6会場